

Journal for the Study of Health and Well-being

Vol. 14

Special Contribution

Global Definition of Social Work Profession and Its Japanese Amplification HAZAMA, Kayoko

Articles

Prevention of Child Abuse and Neglect:

Based on the Child Death by Abuse and Neglect Verification Report YAMAGATA, Fumiharu

Mindfulness and the Japanese body culture:

The mindfulness pelvic breathing method and “Koshi-Hara culture” KOMURO, Hiroki

Research Note

A Report on the Sports Lesson held by an Olympian for Contribution to Local Sports Culture

..... KUBO, Kenji / OKIGUCHI, Makoto / NISHIYAMA, Tetsuo

The Usefulness of SNS Coaching based on a Scrum Data Analysis..... ODA, Shingo / JOTO, Satoshi

Evaluation of school children ability to perform chest compressions along with an understanding of basic life support.

..... NADA, Hideyo / IWASHITA, Yo

The Meaning of Inclusive Dance amidst the Spread of COVID-19

— A Case Study of the “Dance for Everyone” Workshop — CHONO, Hana / HARADA, Junko

Report

Nippon Kempo, a martial art originated at Kansai University:

“Mind” at the top of the eight key symbols..... ZAKO, Tetsuo

人間健康学研究

Journal for the Study of Health and Well-being

狭間香代子 教授 退職記念号

14

2021

特別寄稿

IFSW グローバル定義と日本的ソーシャルワークの展開 狭間 香代子

論文

子ども虐待と予防 — 子ども虐待死亡検証報告を踏まえ — 山縣 文治

日本文化とマインドフルネス

— 腰肚文化と骨盤呼吸法によるマインドフルネスワーク — 小室 弘毅

研究ノート

地域のスポーツ文化に資するオリンピックによるスポーツ教室に関する報告

..... 久保 賢志・沖口 誠・西山 哲郎

ラグビーのスクラム分析データからみた SNS コーチングの有用性..... 小田 伸午・上戸 智史

児童の一次救命処置（Basic Life Support）の理解度と胸骨圧迫スキルの評価についての検討

..... 灘 英世・岩下 遥

コロナ禍におけるダンス・ワークショップの活動とその意義

— 地域連携事業「みんなで踊ろう」を事例として — 眺野 花・原田 純子

報告

関西大学を発祥の地とする武道「日本拳法」 — 八要のマーク最上段の「心」 —

..... 雑古 哲夫

人間健康学研究

Journal for the Study of Health and Well-being

第 14 号

2021 年 3 月

目 次

狭間香代子教授 退職記念号

- しなやかに「ストレングス」を活かす……………村川 治彦………… P. 3
- 狭間先生とのご縁をいただいて……………山縣 文治………… P. 5
- 狭間香代子教授 履歴・社会的活動・研究業績…………… P. 9
- 【特別寄稿】 IFSW グローバル定義と日本的ソーシャルワークの展開 ……狭間香代子………… P. 15

論 文

- 子ども虐待と予防 ― 子ども虐待死亡検証報告を踏まえ ― ……山縣 文治………… P. 27
- マインドフルネスと日本の身体文化
― 腰肚文化と骨盤呼吸法によるマインドフルネスワーク ― ……小室 弘毅………… P. 39

研究ノート

- 地域のスポーツ文化に資するオリンピックによるスポーツ教室に関する報告
……………久保 賢志・沖口 誠・西山 哲郎………… P. 55
- ラグビーのスクラム分析データからみた SNS コーチングの有用性
……………小田 伸午・上戸 智史………… P. 63
- 児童の一次救命処置 (Basic Life Support) の理解度と胸骨圧迫スキルの評価についての検討
……………灘 英世・岩下 遥………… P. 73
- コロナ禍におけるダンス・ワークショップの活動とその意義
― 地域連携事業「みんなで踊ろう」を事例として ―
……………眺野 花・原田 純子………… P. 83

報 告

- 関西大学を発祥の地とする武道「日本拳法」
― 八要のマーク最上段の「心」 ― ……雑古 哲夫………… P. 97

関西大学 人間健康学部

Faculty of Health and Well-being, Kansai University

『人間健康学研究』 発刊要項

2018年6月13日制定

2019年2月27日改訂

2020年11月25日改訂

関西大学 人間健康学部

1 発刊に関する事項

(目的・発刊主体)

- (1) 関西大学人間健康学部（以下「本学部」という。）は、人間健康学に関する研究成果の発表、及び研究活動の報告を目的として、『人間健康学研究』（以下「本誌」という。）を発刊する。

(発行)

- (2) 本誌は原則として毎年1回3月に発行する。発行者は関西大学人間健康学研究編集委員会委員長とし、編集委員会委員名及び査読者名をまとめて奥付に記載する。

(構成)

- (3) 本誌は、以下のような内容で構成する。未公開の論文、資料、研究ノート、書評及びその他について編集委員会が掲載を認めたものを掲載する。論文は査読を行い、資料、研究ノート及び書評等は査読を行わない。

ア 「論文」は、総説と原著論文とからなり、学術論文としての内容と体裁を整えたもので、学術研究の発展に貢献するような体系的なまとまりを持つ必要がある。その文字数は、日本語で2万字程度（図表を含めて40字×30行×17枚程度）、英語で6,000語程度（図表を含む場合は、その掲載スペースを考慮して、語数を減らすこと）を目安とする。

イ 「資料」は、文献目録、調査資料などで研究を遂行する上で、学術文献として公表する価値がある資料とする。その文字数は、日本語で1万8千字程度（図表を含めて40字×30行×15枚程度）、英語で5,500語程度（図表を含む場合は、その掲載スペースを考慮して、語数を減らすこと）を目安とする。

ウ 「研究ノート」は、社会調査などの結果を主とした報告や、スポーツ・福祉・ユーモアに関する実践の現場、及び体育・スポーツを指導する現場からの情報をもとにした研究報告、あるいは研究上の問題提起を行うもの等を指す。その文字数は、日本語で1万6千字程度（図表を含めて40字×30行×14枚程度）、英語で5,000語程度（図表を含む場合は、その掲載スペースを考慮して、語数を減らすこと）を目安とする。

エ 「書評」は、本研究科の研究に関連する単行本について、概要を明示するとともに、その内容に沿った問題提起を含むものとする。その文字数は、日本語で1万2千字程度（図表を含めて40字×30行×10枚程度）、英語で4,000語程度（図表を含む場合は、その掲載スペースを考慮して、語数を減らすこと）を目安とする。

(投稿資格)

- (4) 本誌に論文、資料、研究ノート及び書評等を投稿する者の属性的な資格

ア 本学部に在籍する専任教育職員、特別契約教授及び特任体育講師。なお、専任教育職員、特別契約教授または特任体育講師が執筆者に含まれている場合、本学部外の研究者との共著、または共同執筆論文の掲載を認める。

イ 本学大学院人間健康研究科に在籍する大学院生。なお、本学大学院生が筆頭著者として投稿する論文は、指導教員が共著者になるものとする。

ウ その他、編集委員会が投稿を認めた者

(5) 本誌に論文、資料、研究ノート及び書評等を投稿する者の倫理的な資格

ア 本誌に論文、資料、研究ノート及び書評等を投稿する者は、「関西大学における人を対象とする研究に関する倫理規程」等を熟知し、その研究の全過程において倫理的な配慮を行うことが求められる。

イ 投稿内容に、実験、調査、フィールドワーク等を含む場合には、事前に「関西大学における人を対象とする研究倫理審査に関するチェックシート」等を参照して、倫理審査を受ける必要があるかどうかを検討しなければならない。

ウ イの結果、研究倫理審査を受ける必要があると判断された場合は、人間健康学部の研究倫理委員会または同等の機関に申請を行い、そこで当該の研究計画について承認を得てから研究を行うことを原則とする。

オ 研究倫理審査を受けた場合、投稿時にその旨を証明する書類を（人間健康学部の研究倫理委員会から承認を得た場合は、そこから得た審査番号を）添付すること。

(掲載手続)

(6) 編集委員会は論文、資料、研究ノート及び書評等を随時受付ける。受理した論文は査読が完了し、編集委員会の審議を経て掲載が承認されたものについては、受付日と掲載決定日を論文掲載の際に明記する。資料、研究ノート及び書評等は担当編集委員が掲載の適否に関する審査を行い、査読担当者をつけた審査は行わない。

(7) 本誌に掲載された「論文」、「研究ノート」は、関西大学の学術リポジトリにおいても公開するものとする。

2 投稿原稿の作成に関する事項

(投稿原稿の体裁)

(1) 投稿原稿はA4サイズとする。ワード、エクセル、パワーポイント等を使用し、和文原稿ではMS明朝とCenturyを、英文原稿ではArialを主なフォントとして文章作成することを推奨する。原稿の構成は以下の通りとし、メール添付で投稿する。メールには「人間健康学研究への投稿」とタイトルを付け、本項に示すアドレスへ送信すること。

(kiyo-sakai@ml.kandai.jp)。

(2) 表紙には、以下の各項目を記載するものとする。

ア 原稿種別（論文、資料、研究ノート、書評等）

イ 論文タイトル（サブタイトル） ※邦文・英文

ウ 投稿者氏名・所属 ※邦文・英文

エ 共著者氏名・所属 ※邦文・英文

(3) 表紙の次の用紙に、抄録とキーワードを記載する。

抄録（和文 800 字程度、英文 250 語程度）

キーワード（3～5 個） ※邦文・英文

(4) 抄録とキーワードの次に、ページを改めて本文を記載する。

ア A4 用紙に「40 字×30 行」で記載する。

イ 全体の文字数は、原稿種別に合わせて、「編集規程」の制限に従う。

ウ 「注」「文献」も同様の組み方とし、本文の文字数制限に含めるものとする。

(5) 図表は本文中に貼りつけず、ファイルを別にして提出すること。本文中では、その図表の掲載箇所を、＜図 1 を掲載＞というような形で明示する。なお、図表の挿入に必要とする「文字数」を確認し、本文規定文字数よりその図表使用分文字数を減らして原稿を作成すること。

(6) 図表を引用する場合は、スキャナー等で画像データに変換し、(5) の規定に合わせて提出すること。

また、本研究科の論文執筆要項に従って、本文中の該当箇所に引用元を明記すること。

- (7) 本文に続けて末尾に記載する「注」「文献」も同様の組み方とし、前記の文字数に含める。文献の記載の仕方は、バンクーバー方式（『日本公衆衛生雑誌』等の執筆要領を参照のこと）、ハーバード方式（『社会福祉学』『体育学研究』等の執筆要領を参照のこと）のいずれかに基づくものとする。

3 著作権に関する事項

(著作権)

- (1) 本誌及び関西大学の学術リポジトリに掲載された著作物の著作権（「複製権」「公衆送信権」「翻訳権」「二次的著作物の利用権」等すべてのものを含む）は本学部 に 帰属するものとする。
 - (2) 本誌に掲載された個々の著作物について、著作権侵害等の紛争が生じた場合は、当該著作物の著作権者である本学部の責任において処理する。
 - (3) 本誌に掲載された自らの著作物を書籍刊行等に利用する場合には、本学部の承認を得ること、また初出情報をその刊行物内で明記することが必要となる。
- 但し、本研究科学位論文に利用する場合は、承認手続きを省略することができる。

以 上

執 筆 者

| | |
|--------|-----------------------|
| 狭間 香代子 | (人間健康学部 教授) |
| 山縣 文治 | (人間健康学部 教授) |
| 小室 弘毅 | (人間健康学部 准教授) |
| 久保 賢志 | (人間健康研究科 博士課程後期課程修了生) |
| 沖口 誠 | (関西大学体育会器械体操部 コーチ) |
| 西山 哲郎 | (人間健康学部 教授) |
| 小田 伸午 | (人間健康学部 教授) |
| 上戸 智史 | (人間健康研究科 博士課程前期課程) |
| 灘 英世 | (人間健康学部 教授) |
| 岩下 瑤 | (大阪教育大学大学院 教育学研究科) |
| 眺野 花 | (人間健康研究科 博士課程前期課程) |
| 原田 純子 | (人間健康学部 教授) |
| 雑古 哲夫 | (人間健康学部 教授) |

審 査 協 力

| | |
|-------|--------------|
| 弘原海 剛 | (人間健康学部 教授) |
| 種橋 征子 | (人間健康学部 准教授) |

編 集 委 員

| | |
|-------|-----------------|
| 森 仁志 | (人間健康学部 教授・委員長) |
| 小室 弘毅 | (人間健康学部 准教授) |
| 山縣 文治 | (人間健康学部 教授) |

人間健康学研究 第14号

2021年3月31日 発行

発行者 村川 治彦(人間健康学部 学部長)

発行 関西大学 人間健康学部

印刷 株式会社 遊文舎
